

# 種苗放流効果調査（アワビ） （要 旨）

勢村 均・由木雄一・石田健次

## 1. 大田市和江地区

昭和59年8月7日に花型ブロックアワビ礁の調査を行なった。ブロックで観察されたアワビ類はクロアワビ、メガイアワビ、トコブシで、個体数はクロアワビ0.6～3.4個体/ブロック、メガイアワビ0～0.4個体/ブロック、トコブシ0.2個体/ブロックであった。

付着部位はブロック上、下溝部であり、殻長はクロアワビが6～13cmの範囲で、10cm以上の個体が80%を占めたが、メガイアワビはすべて10cm以下であった。サザエは0～0.2個体/ブロック観察された。

ブロック上の海藻はオオバモクのみであったが周辺の天然礁ではウミウチワ、クロメ、アラメ、ヤツマタモク、オオバモク等14種が観察された。放流稚貝はアワビ礁よりもむしろ港寄りの天然礁に多く分布した。なお、付近の露頭岩礁内の水深約1mの岩頂細溝部にムラサキウニ、殻長3～4cmのクロアワビ、殻長1～2cmのトコブシ稚貝又はクロアワビ稚貝が混生しているのが観察された。溝はほぼ東西に切られており、巾5～8cm、深さ5cm以下であった。溝底部には浮泥はなく、きれいな砂が所々たまっていた。流れは溝に対して平行であった。

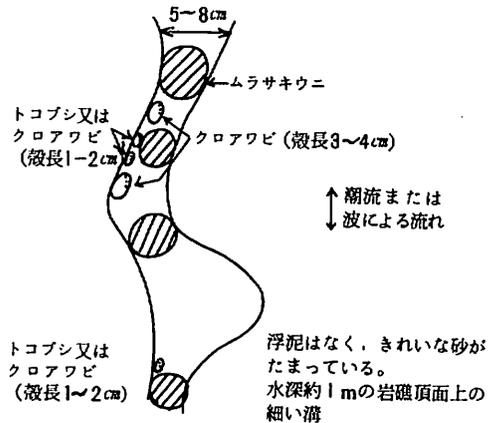


図1 アワビ稚貝生息場概略

## 2. 益田市飯浦地区

昭和59年6月28日および8月30日に調査を行なった。ブロックで観察されたアワビはすべてクロアワビであった。付着個体数は6月28日0～2.3個体/ブロック、8月30日8個体/5分×1人観察であった。付着部位はブロック下あるいは岩礁であった。殻長は5～14cmの範囲であった。優占した海藻類は6月28日ワカメおよびミル、8月30日ミルであり、周辺の天然礁と明らかに差異が見られた。現存量は6月28日 828～4652 g/m<sup>2</sup>、8月30日 4232～5965 g/m<sup>2</sup>であった。

（詳細は「沿整協会ニュースNo.27, 昭和59年度年間報告版」 島根県沿岸漁場整備開発協会, を参照のこと。